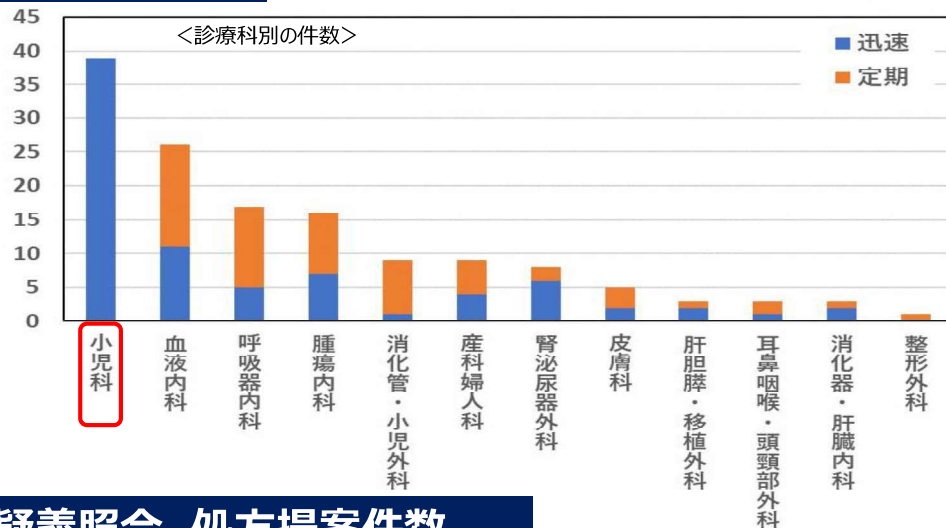


# 三重大学医学部附属病院の小児病棟の薬剤師の取り組み

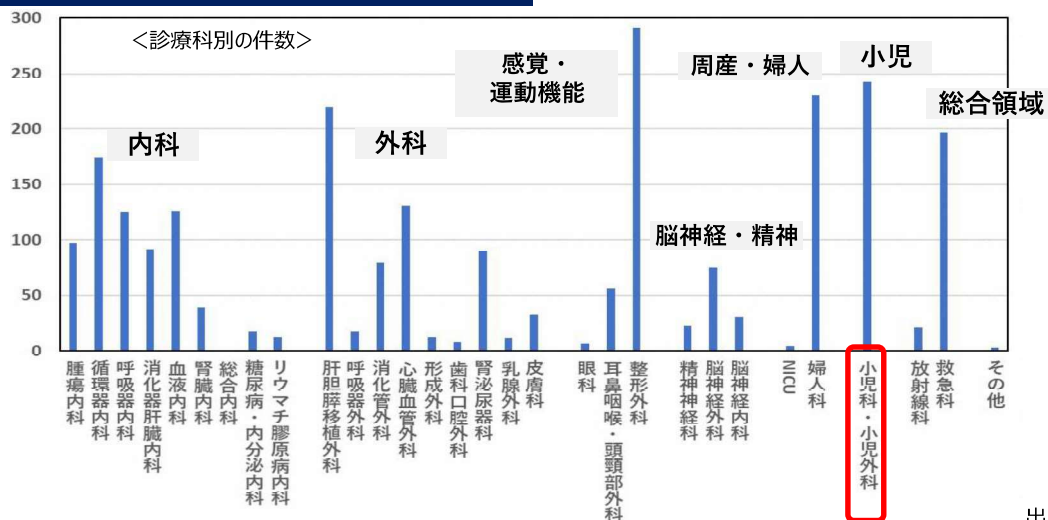
- 小児病棟において薬剤師は、下記の様な業務を実施している。
- 小児は標準治療が確立されておらず、体格により薬用量も異なるため、薬剤師によるダブルチェックの重要度が高い。

## 1. レジメンの把握



- 小児は年齢・体重にあわせた個別化治療のレジメンも多く、迅速に妥当性や支持療法を確認する必要がある。
- 化学療法の場合、性腺毒性を評価し、妊孕性温存治療について医師と協議する。

## 2. 疑義照会、処方提案件数



- 小児は体重、体表面積で薬用量が異なり、成人に比して、薬剤師によるダブルチェックの重要度が高い。
- また、高額かつ厳格な管理が必要な医薬品が増え薬学的介入が必要とされている。